

特31

671

東京府

西洋新書三編卷之下

東京

瓜生政和編集

○費勒特費府の説

費勒特費府ハ季候華盛頓府ハルチモール府より北西の方へ離るるに四十八里

同程ありてハルチモール府より北西の方へ離るるに四十八里

里の処あり家数七万軒人口四十五万余府内市中の

往来ハ井字あり東西二里余南北二里半余あり街の

西の方と流る河とテラワレと云ひ東の方と流る河とシ

コイケルと云ふハ二筋の河府外あり合して一大江とありて流る

西洋新書三編卷之下

海の入り口より府下まで十里余ありといふ大船自在不滞
 り来つて由取出入の貨物の運送不便ず初めて合衆十三房
 の公會所と建りの地あり市街の中小商人稀なり富家或ひは
 問屋の類多く金銀硝子細工ハ亜米理加島中の最上の場所と
 すけ処小合衆国才一と称す。旅亭あり千八百五十五年今
 より二十七年亦不出来一普請おん度後の総数八百二十間
 湯殿雪隠不至るまで花毛種とよき釜ハ多く銀小て造ると
 用由ハ華盛頓小云ると同し市中の人の飲水多し水と
 地中へ水道と通ド樋と以て家々へ引テ華盛頓府と同ド水
 道の源ハテラワレ河ハくテラワレ河の水と水車の仕掛おて

山の上へ押揚け而して府内の市中へ引通するあり又「ガストラ
 ン」の樋も地中と廻りて通する。華盛頓府ハ鮮ると同ド
 前も説るが如く「ガストラン」ハ石炭の氣あり石炭の油と水中へ
 通して悪き香と去るところ或ひハ石炭と貯る処ありて
 甚が廣大あり金銀座あり金銀の細工ハ蒸気機関の仕
 掛と用也

蒸気機関の多ハ初編「サンフランシスコ」の條下小あり
 以金銀座の内ハ我國の土産の如く建一家ありて中ハ軍
 用金と貯る者金山の如くありて見る者眼と驚うせり
 又市中ハ四方十町を庭あり中ハ数層の高樓魏々

して聳え建周田の一面に種々の草花を植て其美
 めると華紙小尽の花園の中央の高楼と心おつた
 く論お取らる馬場ありけ処にて男女常小馬術の稽古
 とり或ひの車と曳せる馬と馴するあり都て市中の往来へ
 大石と繋つめ其中へ馬車の道と造る當府の亞米理加中の婦
 人の羨ある所とらふ傳信機ハ華盛頓府のルチモール府又
 け町何とあても少し繁華の市街ハ必ず掛
 傳信機のあり初編巴那麻の條と後の「紐約の編と
 見て詳あり
 け地「紐約「波士頓府小次での繁華をとい百物備り

と云ふと「ノとらども多く華盛頓府の條下小出せば
 畧す
 再説小廿一日「ルチモール府と出立せし人々の蒸気車と此
 小向つて走らする小途中人家稀ふしく山遠く林ハ緑とみ
 草の茵と連ねるが如き郊原と往て五六里ふく一筋の
 大河の岸小至る小「ボンボウトウスリツキといふ名の橋ありて
 都て鑊と以て造る長サ十七八丁河の中ハ九一里午刻時へ
 どりテクリスと云ふ所へ出る小まゝ大いなる河ありて名と
 ハ「フルデガラスと云ふけ河ハ水勢早く強く強雨のふあ小
 橋と流せり度々あると渡りと成りより小て蒸気車と

乗る蒸気船掛より其船の日の丸の旗と合衆国の旗とを造り船の長六十間中十間程ふりて斯の如き形ち小造り船の上と平らふ張り詰鏡道と設け兩岸の渡一口ふハ棧橋ありて是と陸より船掛水の増減小拍らず陸と船と相通ずる船仕掛より蒸気車走り来つては船小なる船忽地ふ走り出車へ止まらて動うず然し船向ふの岸ふ着ハ蒸気車まゝ走りて速ふ陸へ上り船へ戻りて元の岸ふ帰る其妙巧の大いある実ふ驚く耐よりある処より行て五里をりふりて「ウエミンクルン」と云ふ大いある村へ出る人家三百軒余寺院の類ひも多くなりえり「ハ



フルデガラスより「ウエミンクルン」の向尽く松林あり稀ふ畑ありて麥黍豆などを作りてとせる牛豕の野飼ふりて多し晝ハ時半時より「費勤」特費府ふ至るふ府の入口ふ馬車數十輛を扣えて我朝人と待故此処より馬車ふ乗替へる兵卒三千人小銃と持ち騎兵千人白刃と獲

何とも装束冠物の羨と尽一列と正しく警衛す馬車の左右
 へ市中取締り役の者五百人木造りの十手と打振り
 足物人と制し止む是れ何とも力量の勝り者と撰ん
 用ちよ一は警固人皆胸小日の丸と合衆國の旗章と
 縫ひ内四十人など其傍ら我ら日本朋友の来りて
 賀すと認めあり是れ支那人の書あるより市街の入り口
 より旅館まで家毎小日の丸或いは大日本と書し旗或いは
 合衆國の旗と窓より出り大いなる向ふあの高樓より麻
 縄と引き中小提げ小あひる小持て五階六階の窓より
 日本人の車と招き女の白き手拭と以てぬるもあひる男へ

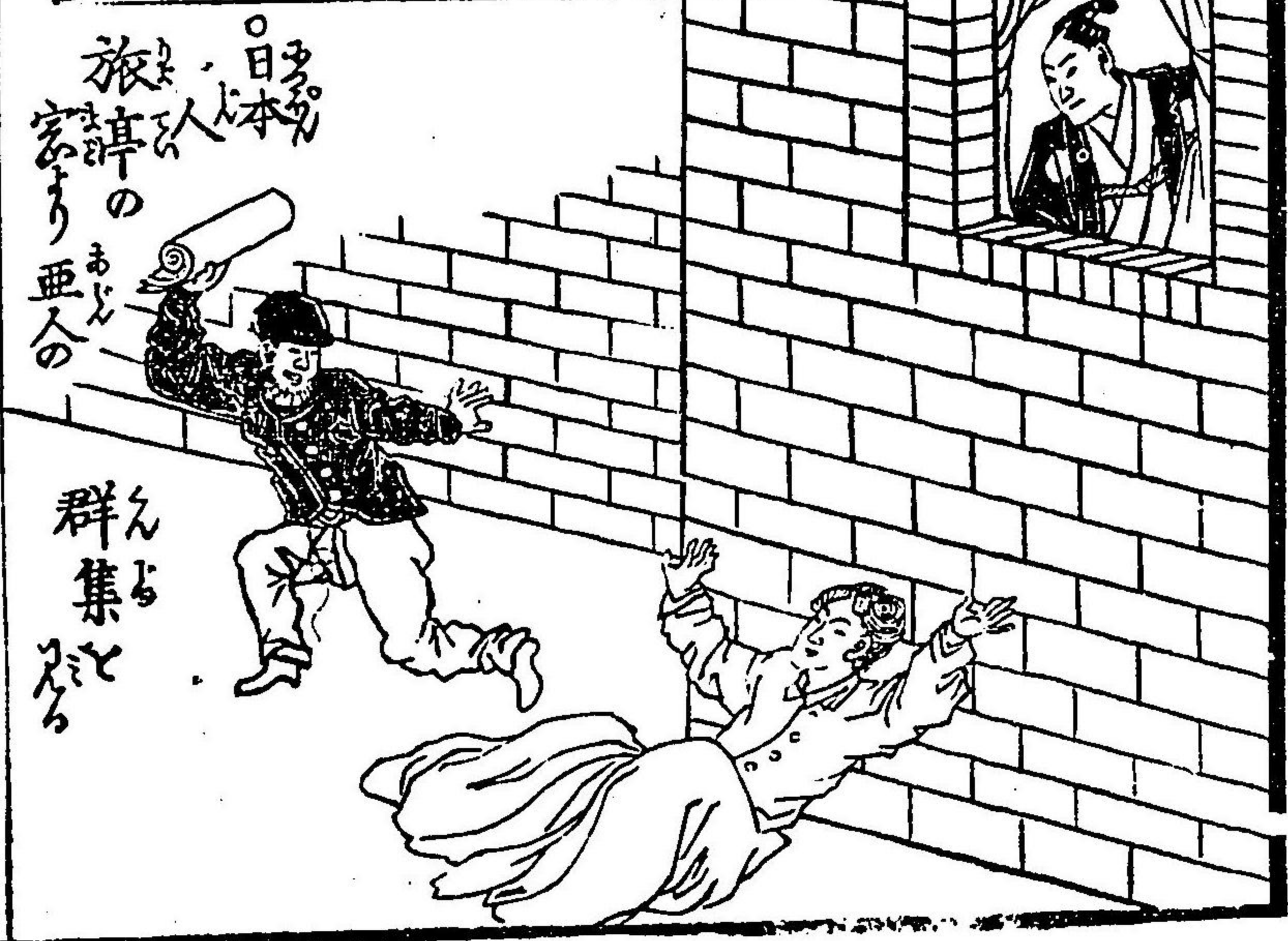
大声と傘一冠物と取り是と上げ下げして招く襷敷の花も壇
 見物の群集我國の祭礼の摸杓小く神樂持小渡らんと
 する時小異あらず其方け方より我朝人の車の中へ美しき
 草花と投げ入して贈り市中を巡り往々下時余ふり夕七ツ
 半過旅館ふ至る門あひる騎馬百人劔と持歩卒三百
 人銃と採りて警固為せりけ国ふて斯の如く多勢の護
 衛と出せりへ古来始めて成と云り旅館の廣大小して座あ毎
 小物置湯殿雪隠よりあひる風呂へ何時ふても捻止と廻せ湯
 水例の如く自由ふ出て便多りけ家造りの大いふり美麗
 ある小い人々一同小目と驚きせり

西洋新書 三編之三

廿二日西洋布と織出す蒸気の機場と一見す小綿を打ち糸
と引き布と織のときを皆蒸気の運動おてお傍らふてい
紙と折活字判と摺立多し次は洗濯所もあつて是れき
蒸気の仕掛と以て衣類の汚きとあつす其功実妙と
尽せり

廿三日朝六ツ時出火あり消防の人数一組々隊と分ちて押
出り来るふ其持出りたる具へは尽く日の丸の旗と合衆
國の旗と附りて日午後よりテラワレ河の畔へ往るお
東京飛鳥山の趣きありて松の犬木の間より四方と見
晴し風景最より旅館よりけ処まで二里半と云ふ

廿四日旅館おの見物人の内お
年若き婦人ありて何とも美
しき我朝人争ひて窓へ出
てもと揚て礼とあせば婦人
あもて歩て礼と返り程あ
け処と立去りしが傾て美あ
り花と推考え来りて誓言固の
者へ頼て我朝人お贈り名札
と乞けとば花と貰びて謝り
名札と贈りふ三人の婦人喜



悦んで去るは国の人本朝人のもと握り礼と為すことあり
 帰宅しく是と祝ふと云ふ本朝人と愛敬するを斯の如し
 廿五日旅館の窓下へ十六七才の美しい娘来りて我が朝人
 是小扇子錦繪をいと投げ与へその娘の名札と望みけり
 此娘一人し日本入より餘り不多く物と貰ひて妬み年
 若き亞人ら打集りては娘を嘲弄あり果は突倒し我
 朝人の与えし品と奪ひ取て逃去り因りて警衛の士
 卒出て制し止め娘を送りて其家へ返せり是より窓
 から物を投るに至つて厳しく然ともし物人の中より
 我朝人小物を贈らんとて窓の中へ投入すと多けりとも

我朝人は是と拾ふとと禁じり
 廿六日旅館中へ大力の女あると見る歳三十三のより肥
 太りたりとりども美しくは女米二斗と入る鑊の大小
 鼎と両も不持て竈へ上げ下ろしすと最も怪しむふ並
 の男の三人力のあるべし怒て亞米理加の国の者の男女共
 手の力多しと言ひり
 廿六日風船ふある者ありあり是と見物ぬんとして
 立出るふ旅館より一里ほど往風船を揚るの廣場へ出で
 四方へ棧舟を構え見物人数百人其上へ居りて
 風船を見ずして皆日本人と見る風船は今日けりとも

昇りて「紐約府」往と言ふ常は是へあること林示し
どもは度日日本人其工風の巧妙あると見せんが為不用也
言ふ

風船の夕々華盛頓府の條下小委りけとの爰小省く

け日夜ふ入り火消の人数九六十組一組小一ツづ蒸気仕
掛一馬車小ポンプと乗せ其上小美一草花と飾り
操出—来るて八九千人外小日本人の衣類の黒羽二重の
紋付と着—髪と冠りおひくの出立おてる車小又ハ
額燈籠小仁義礼智信と書車の上小飾り是と草花
おて粧ひ我國の満燈の如くおめりたるを馬小引せて来る

も在り何とも旅館の窓下と往返す彼の火消の人数ハ惣
勢十六組も毎小数本の花火を持ち又音楽を奏する者
百人余おて樂と奏して先小立バ彼の八九千の人数
小進—一声号令と受けると相圖小各整—く持たる花火へ
火と移せば八千の花火一度お発して空中小昇り発く其
声恰も雷の如く其火ハ紅白黄青小擴がりて大空一面の
花とあり光り窓の硝子障子へ映—明らりあるて盆の如
くおいて壯觀壁ふおものあり後小至りて惣人数小持たる
花火の数の限りを乱発小打出せば進—る火の玉又物人
の天窓の上へ落めると雨の降るか如—とい—も筒袖小

て冠り物ありとい然のこふ恐とす数万の足物人関の
声と奔りて夥しくけ花火凡十四五町をども続くと思
ひて趣向の大いある眺望の美くりき筆紙小述尽し
難し

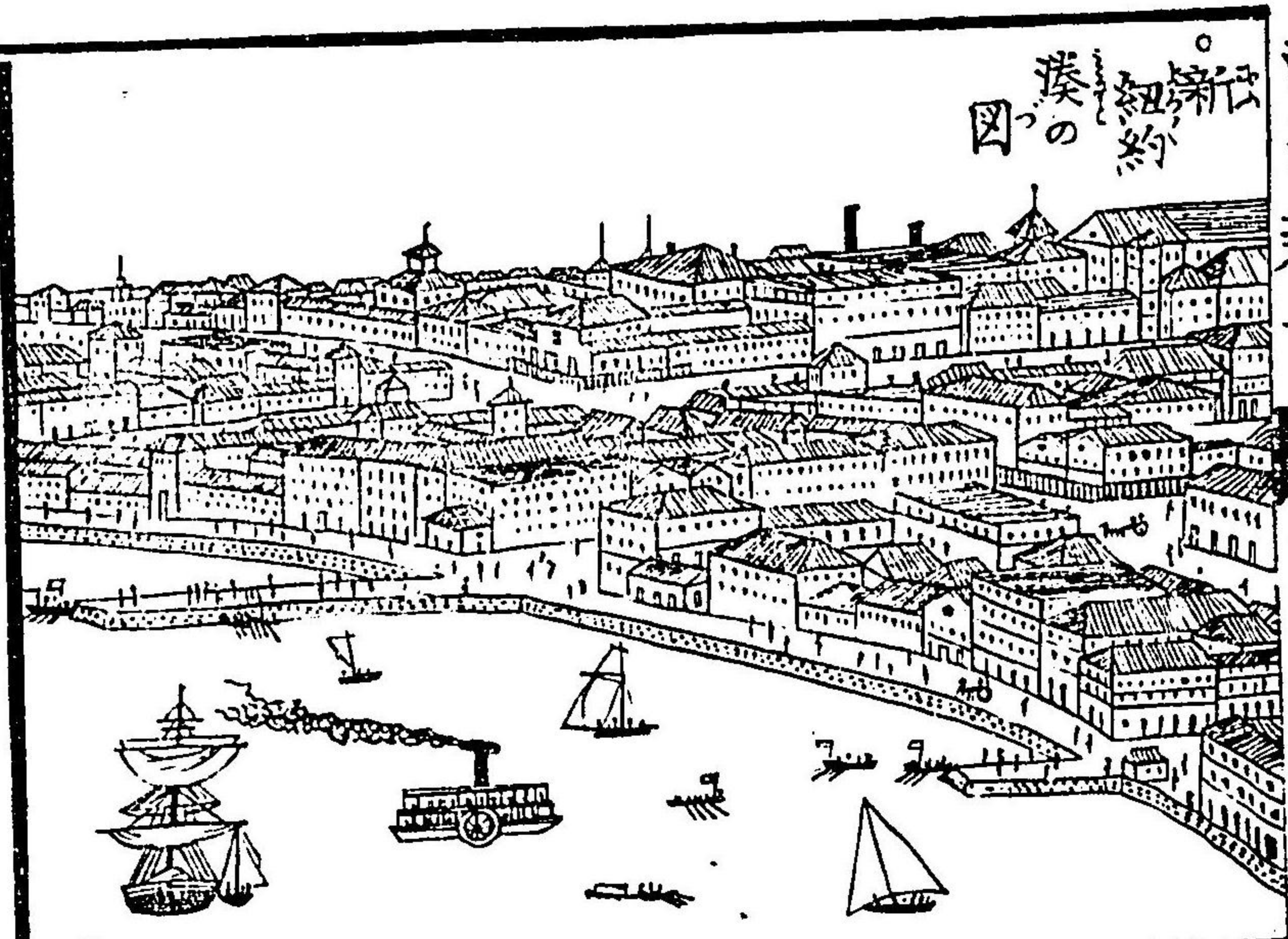
北八日朝五ツ半過各馬車小打参りて「費勒特費府
と出立り」新紐約さうてぞ急りける

○新紐約の説

新紐約は千六百年今より二百七十二年かの頃和蘭人け
國の南の地方ふ来つて土地を開き新和蘭と号けりが
千六百六十三年今より二百九年あつたのころ英吉利人一軍

と率ひ渡り和蘭人と遂ひ其地を奪ひ改めて新紐約と
号け人種数百と移すと雖も尚寂莫たる寒はありが
日々夜々ふ繁華を増し今ハ亞米理加島中第一番の大
都會とあり世界中ふて家数人員の多き都と言は
れしと支那の北京の都とあり第一と英吉利の龍動の
都とあり第一と日本の東京の都とあり第一と佛蘭
西の巴勒の都とあり第一と合衆國の新紐約の都と
ありす然るに家数九十三万軒人員九十万余町々の往来
井字小通し東西の長さ三里余南北の長さ二里余あり
て港の内ふへ各國の高船橋と連ねり材木河岸の丸太

新埠の漢圖



の如く遠近の川蒸気船煙
 り賑はるゝ民の竈不整
 く青く彩色一屋形造りの
 渡一船あど白く塗る猪
 牙仍ひのハツテイラあり大
 船帆と張て新と波間の山
 とみ蒸気船煙りと揚げ
 忽地水上小雲と起す早き
 と欲する飛脚船重きと須か
 産物船朝と報する軍艦の

大砲タアと促がす番船の喇叭さも小廣き川口も僅う小船路を
 通するのこあり儲きと陸の運上所と始めとく諸院薨を
 連ねて建るうび佛殿あり講堂あり芝居あり觀物場あり
 青物市あり野菜菓物山とるゝ渦高く有河岸あり獸鳥
 魚肉土手と築いく夥と照日小羞明き四辻の干足世雨雲小
 色増す檐下の草花や肩の強き小誇る曲馬の觸看板
 あら声の喘涸と哀む新聞紙賣の呼子あり
 新文紙の盛ん小行へは「新紐約府と英吉利の
 首都の龍動を以て世衆中の第一と為すべし」新聞
 紙の日々小出板するもの有り或ひは五日り或ひは七日め

小一度出板あるものあり何とも速うあると考ふがゆえ小
 蒸気の仕掛を以て摺立とば十万字余の板と一時の
 間小一万五六千より二万枚と仕上る小至るけ書出来
 上とべ直小諸方へ送る小蒸気車蒸気船を以てする
 故其神速あるて声の訝小應ずるが如し新聞紙小記
 す取ハ國政の評議役人の得失與廢政府への建白書
 等と始めとして天津繪の鬼が發起して鉦を叩き
 よう鳥羽繪の摺小木小羽根が生て飛くと云ふ類ハ
 他国の噂さ自國の詔何小因らざる耳新らきと出す
 あり然も小新聞紙餘る小直と公明小誌すや急政事の

機密と洩れとて小蘭西小於てハ一度停止とありこれども
 我程あつてもと指さるるつと成り新聞紙小ハ人と褒
 るも顯へるもとば誹謗もきく顯ある故誹謗とくる者怒り
 小耐ず新聞誌の會社小来り大い小議論小及ぶ
 とあり然すまゝ其翌日の新聞紙へ議論小来りて出て
 彼振る言よりみどるものと記す新聞紙ハ他より金と出
 て是小委するものと頼むものあり又板元おて金と出して説
 求むるものあり故小新聞の種と探り歩行と日々業
 として生活と立入あり新聞紙ハ居るうら小して世の
 中のふと見ある小足とばは國の人新聞紙と見るを

以て樂しむる者多し然れども新聞紙の所
 町の會社にて新しきと争へし市町の風説の傳と記し
 根元と極むるに至らぬもあはれ間違ひ誤りとも
 言ふべし然りながら同遠ひ多き會社の新文紙の賣
 悪く成り往ぬる先の確ある証拠を得て後不誌すと
 常と爲す新聞紙の行へるに價と下直くして反古を
 買と整正しくあると以てあり故に一見爲りて後の多く反
 古小替て多ふは板前も言ふが如く他より頼り来る
 めのと摺出すは其文辞の数小因り定まり一價あり
 て是と採るともみまば斯直段と安く賣出さるる

物と言ふ

市中往來廣くして車五六輛も双べて曳すべし人々多
 家の軒下を以て往來と爲す蒸気車の鐵道は四方八
 方へ通し傳信扱の銅線は蜘蛛の巣の如く小張り

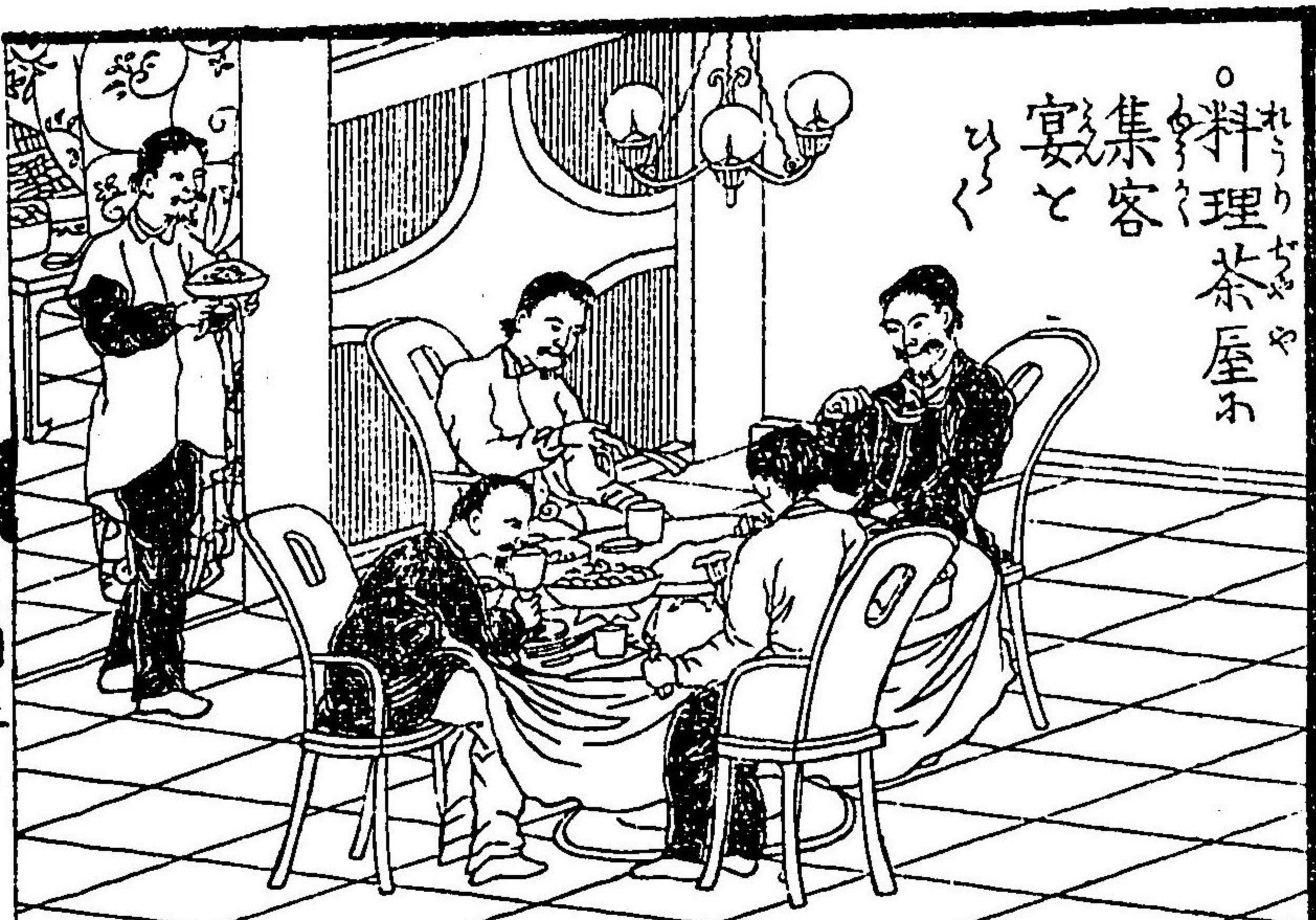
初編へ新紐約より東方西斯哥への鐵道普請
 最中の由と記しより一かは鐵道既成成就して蒸
 気車の往來今の自在なるの新報あり抑亞米理
 加合衆國の西の地方の高山大川多くして樵夫獵男
 の往來する路さへ未だ開けざる程の悪野ありしが終

人力の奇功を以て一條の狭道と罷き西の海岸の「東方
 西斯哥より東の海岸の「新紐約まで千四百里余
 の路より土地の最高き処へ海面より二十三町をど
 登り我加賀の國白山の頂小近き程の場へ通じ八日
 七夜ふいて蒸気車彼方け方へ達するよー其普請
 の廣大なる誰人う是と驚うざらんや合衆國の狭道の
 千八百二十九年今より四十七年おと始めとみ一夫
 より次身小罷けて千八百五十五年今より二十三年
 おお至りての狭道の長さ真直小伸して六千六百
 五十七里余不及びたり此と比ぶ今ふての倍増加一

一万里小も勝るありけ國東北の方へ大いなる河ありと
 りども山岳少なき故を以て狭道直小して平坦多き
 蒸気車の立場を最初の一車小て乗替ず小二百里三
 百里の遠きを走るか車の輿大きくて人の住居の如し
 然れども「東方西斯哥より「新紐約への狭道の峻岨の地
 のこ多きふより大川への長橋と渡り絶壁の高山のけ方
 の麓より彼方の林麓へ掘抜て洞穴の道と造りたるところ
 もあるはそへり近頃け狭道と經て「新紐約府へ往き
 くる者あり遠くらず帰り來るとの詳あるを得て
 再度是を記すべし

又鑛道と通ずる処へ必ず傍小傳信機と張置多
 是の今日何時小蒸気車けところと発して何時小
 其地へ至るとりふことを報ずるがめあり然まども傳信
 機ハ鑛道のあるを小抱らず是を張て諸事の便宜
 小用也とい其銅線の長さより漢道の里数小比較て
 知るべし

地夜ふ入りて往来の人倍多く路の両側へ建並へる玻
 璃の高燈籠數十町へ連り家々の入り口の上小掛る
 一カスランアの燈器其数百小過るものありて一般小燈と点
 す小明り窓々の硝子障子へ移り遠く是と見渡せば



料理茶屋の
 集客と
 宴

月下の露小光りと漆ふ珠の世
 裏も斯やと思はれ近く是と詠
 むとて我が国東京の花衢の秋
 の燈籠ハ九牛が一毛程小も及ば
 ざるべし始めてはるものハ是の
 景色の為小腰と扱さぬ斗りか
 まども住馴一人々の眼小も止
 ざる恩行小玉搏かしの勝負
 争ひ料理屋の生酔言ん方
 かき販ひ小往来の人の音

馬車の裏く声の絶る夜の八ツ時より七ツ時ごろ迄の間あり
 市衢の家居の廣大旅舎の立派等へ華盛頓府以来大同小異あるの成まへ是と記さず前小諸院との書ら物の二と挙て爰ふ分まへ病院貧院啞院盲院学校文庫等の館舎あり

○病院の貧乏人の病小罹り醫藥を用ふべきもの成らぬ者の為小設けらる館小して政府小て是と建らる又都下の陰徳者打寄り私小會社と結んで発起せしもあり然まとも病院の失費莫大るまへ有徳

の者と雖も力及び難き小因り志あるの人小頼んぐ患者の為小投財の寄附と乞請その金と以て長く病院の取續き方出来る小法立と設るあり入院の病者極貧小まへ都ての入用と出さまとも今日の活計ら程の者へ其人の身代小應小て醫藥の價ハ勿論万の病人小へ女の小抱人附あり病者ハ時小附つて減加ありまとも何まの病院小ても一々年小へ二三人と療治まへ又有徳の者へ外宿して病院へ通ふあり是もまへ二三万人小及ぶと云ふ

○貧院へ老人幼少或ひ病身も五體不具ふりて活計もぬれ難く貧困に迫るものと是非入と老人の身終るまで養ひ置病身不具の者ふい力不及ふとけの業と授け幼少の者の其才小相應せし職業と仕込十八九才より二十歳小成り活計の立ふと至る他へ出りて世帯と持するり又壯年の者ありと病難火難賊難何ふ依らず格別の損失をいふ貧困窮る小至るときの哲時院へ入りて急場と凌ぎ活計の方成る小及んで他所へ出るもあつたり

○棄兒院へ貧窮して兒と養ふと成り難きもの或

ひへ密通をとりて子を生む表向小育つるに能はざるもの各ど皆去の院小来りて棄往る元來密通するとい厳しき法度をきども兒と脱すに密通するより其罪重し子と棄るに誰しも耻る所ある人目小立さるやう小出来る仕法ありてあり院の構えの外小鈴と掛置て兒と棄る者らの冷と鳴りて去ると院内より役人立いで棄る兒と拾ひ揚げて役所へ抱へ往直小乳母と附諸多叮嚀小究として養育と加え頃立小及んで貧院小て幼童と扱ふの法と同ト斯の如く兒と棄安き扱小仕掛置さると孕し女

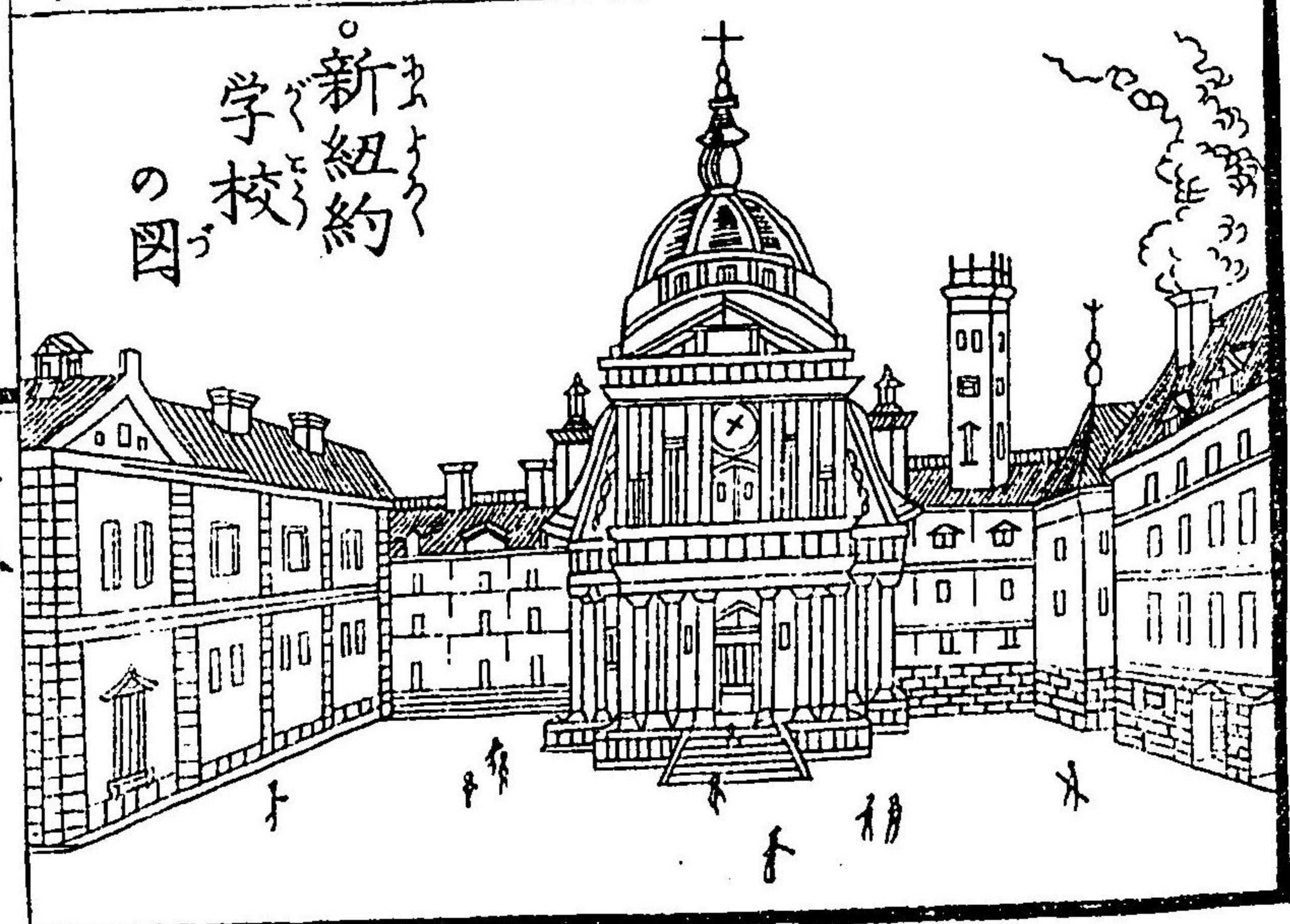
薬と用ひて脱胎る一又産落しても潰するもの甚
 一さ小至るとあるが故ありとぞ貧院棄兒院も
 政府ふて建る物るまども私小會社と結んで設くるも
 あるい病院の法とかるド

○啞院の啞人と教ゆる学校あり一啞子の性来音声と
 發するの機械ありとりども耳の穴の通せざるに依りて
 人の詞と聞覚え夫小效ひて五音を働うすと出来ぬも
 のより其聲扱ふに笑ふ声泣声の常の人と異なるを
 然とば啞も聾も教え方一つありて算術天文地理学を
 い何とも尋常の学校と變りる一其教え方ハ鳥獸

草木家作衣類諸道具と何小限らず一切の物の形
 体と画し書き画の上の処へ其名の文字と書き指を以て
 教え教ゆる人の物言ふとき唇舌齒などの運動とんせ
 て是と濫えさせ音声と出すとと字ハするあり既小
 音声のゆる小至ると次ぐ諸の言辞と覚ゆると云ふ
 ○盲院ハ盲人小教ゆる学文所ありて書と読とて習はす
 小紙へ文字と浮出させ指の先ふて按さするありと
 地圖の如き針と以て紙小孔と明け海陸の形と畫さ
 是と探らむ算盤ハ算木の如き物在りて彼方ハ方
 運動せ加減乗除の法と覚えさするあり盲人ハ日本

と同ドみふて男女ともふ多くハ音曲の業と習ハハむき
 男の作業ハ織と織り籠と編女ハメリヤスと組む
 どと職と為ハて是と市ハ鬻ぎ日々の入用の且ハと為
 す大抵六七年ハて學術あるとりの啞院盲院とも
 小是々々ハ公私の差別仕法ハ前の諸院と同ト
 猶種々の院あとも事繁けとバ爰ハ省ク
 ○学校ハ新紐約ハ限らず何もの都府如何ある偏
 鄙の村里ハ至るも建て置あり政府より建て人
 教申るものあり又ハ私ハ小学校と建人ハ教申る物あり
 男女とも七八才ハ至るも皆学校ハ替古ハ往初めハ入

学校と小学校と云ハ先づ
 多習と一其国の歴史と始
 めとリ天文地理や窮理の
 書と読ハめまて美術と教
 育あり斯ハて十五六才ハ
 至り又ハ大学校ハ入るハ学
 校も小学校と衰ハる
 ところとハ今迄ハ
 追々ハ高さ処と教申る
 然ハて是よりハ我ハ志す



処の学三術へ移り武士ふ成んと思へば兵学校へ往函者
 ふ成んと思へば醫学校へ往あり二十歳を以て業成る
 の期と為す学ふへ校へ入りて熟生と成るものあり
 家ふ在りて日々通ふ者あり教授の朝六時半時より
 始り晝九ツ時ふ終りきくハツ時より始り夕七時半時
 終る七日毎一日の休日ありて寄宿の書生の家
 へ歸りあり学校の規則秘昔古の中ハ法式甚く厳あり
 としつども向ふハ意の休ふむすあり夫故学校の
 傍らふハ園在りて草木と植と泉水と引き拵戲
 奔走の地と做し又柱を立て梯と渡し網と張り網

と下げみどして学童の拵物とあり苦学の弊阿と晴さ
 せ且身體として壮健るらむるあり貧人の子ハ貧学校
 ありて入費と出さす昔古出来ると云ふ
 ○文庫ハ自國ふて出板する書あり其書一部と是へ
 收めしめ外國の書ハ買入ると貯ふるあり故ハ古書
 新書俗書圖画とありふ至るまむ備わらざるとあり他
 より往て読ハ勝り次ぎるといふものも是と借りて家
 へ持帰るとハ免ふるありけ庫内ふハ書籍百万卷の餘
 と藏すると云り

府の内小諸人拵觀の場とく最廣大多の花屋あり十方

坪余の構え小く種々の草木と植て春夏秋冬花の絶る時を取分て五葉の松と櫻の大木小の面白き木振り多し築山の模松どう妙小く凸凹の間より種々の花と見せ泉水へ八方より流と引て満むまば池水漫々とて堪え浅き処小の水草と植て花と咲せるといふ風景絶妙小しく眺望の美ある実小筆紙小尽し雅し天氣能日ハ花歩の人々け処小来ると東京浅草寺境内の花屋敷の如し

○廿八日費勒特費府と出立ぬる人々の馬車小乗りの新約紐中猶記すべしこの澤るとい猪数と惜て爰小省く

二十丁をど来りて「デラワレ」と云ふ大河小至る水巾十町をり小く蒸気の渡り船あり是小多りて彼方の岸へ打越し夫より蒸気車小て走らせ午刻より「アンホーエ」と云呀へ歩ふ兵卒数百人敬言固より出張し又十三四より十八九までの娘と三十人小男姿小拵へ旗と持せ「子ウヨクフリンセスヘイ」と言ふ河の岸まで送り来るけ処より河蒸気船小なる小入江るまども波高く右小「ロング」嶋左り小「スタツ」ア嶋とて進むけ処両の岸小臺場ありて祝炮と発す合衆国の軍艦小ても祝炮す斯く「新約紐の港内小入り未刻上陸し馬車小なる小車の両脇へ三尺小丸を九き棒



と持る警固一人が附添ふ
 途中ふて騎兵二千歩兵
 三千人余集り小銃長刀劍の
 類と持て調練とるると見る
 是は此地の警固の人数ふして
 英吉利佛蘭西阿蘭各とより
 も馳走の警固と出りけり
 惣人数一万余ふ及ぶ一隊毎
 不装束と分ち例の如く音
 樂の律ふ合して進む又婦人

三人ふどの箱と脊ふ負人往あり是は戦場ふて疾と蒙む
 或ひは病ひと清なる者へ与ふる薬と入るとと箱のより一里三
 三町ふして旅館へ着す往還の見物人旅亭の摸拵は是迄
 の都府と同くは家も七階作りふして実ふ廣大あり一費
 勒特費府の宿屋も爰の主人の店ふして亦年英吉利
 仏蘭西都児格の三國と魯西亞國と地中海ふ於て戦
 争るせし時合衆國へ魯西亞ふ加勢し旅館の主人へハタイ
 ロンのゴロ子ル役と命せらると騎兵三百人歩兵二千人と率
 ひて大いふ戦功ありりと云へりけり大いある宿屋と五
 軒持るより當日の市中商賣惣休こるり

廿九日昨日より昼夜とも小旅館の近辺と数百の兵卒銃
と持調練ふて往返す當地の各国より入り込こ者多
き故取引け念と入とく日本人と護衛するとぞ

五月朔日評定所へ至る途中の警衛厳おしその摸拵は是
まぐの所々と同ド

二日雷雨あり旅館の内お落し嘯の寄せ黒人の芝居ま
土人の芝居もあり廻り舞臺せり出の仕掛本舞臺
の摸拵とも東京大坂るどの芝居よりの大熱りあり狂言
の仕組へ強盗の住居の拵ふて本舞臺一面お我々る
山と足せ盜賊の頭許多のち下と共お酒宴とゆて小賊

ども代りぐお踊りけ所作すむ呀へ外より三四人の小賊一人
の婦人と引来り賊の頭へ差出せ賊の頭へ打萎とる女
の手と採り撫恤り愛して搔口説ぐ女へ面歡待とれも
心お役へんとあさ種々の思ひ入とありて幕とあつて物
男女のけ間お側の酒店へ往て酒と飲めれば菓子見せ
往て菓子と喰ふあり酒店菓子見せへ何とも旅館の
中お在り斯くて又元の椅子へ来る見物人の狂言と
除野おいて両眼鏡をどおて日本人と入る斯て幕明は
舞臺へ矢張山中の景色おいて劔と帯とる士官
体の優男我が女房と賊お浚いと後と追うけ来る

け時前ふ捕りて女山賊の住家と逃し来り山の細
 道ふて夫小往逢ひ兩人とも大い小喜こびふふと把
 りて坂道と馳るふ女の足の不果放行間ふ多
 の山賊追うけ来り爰ふく士官体の男と小賊人の
 立廻りありて終ふ兩人とも捕はるとあり再度山
 寨へ引戻きとあり賊の頭ハ士官体の男と種々小
 責噴き苦む体を見て笑ひ樂む立敵の仕打防分
 悪々しく女ハ夫の苦痛を見るふ忍びず賊の心小防ひ夫
 と救えんとする思ひ入を仕打むと我朝の物と憂る
 とる一序幕ハ道化の仕組ふりて人の女房密夫と引

込し少濡の仕打ある処へ亭主の帰り来る足音小驚き
 密夫と戸棚へ隠す亭主ハ外より入り来る女房ハ間とん
 て密夫と戸棚より出逃さんとあるふ都合悪しけとび亭
 主と透して他行を勧むととも是と察せふや亭主出逃し
 け一場兩人の仕打大いふ人を笑はせたり又後方面の所作
 ありありおと西米理加人ふりて後方を日本人小造る種々
 あきととも潰々けとい省さく記さず
 三日他の芝居と見物す是ハ新狂言のよりふく日本伊豆の
 国下田港小於て合衆国人の「ペルリ」と日本人との應接の
 模様あり或いは日本人小出立立衣類袴手今まど皆日本

の物と用ひて踊る諸方の芝居
 不て日本人不見物と頼むと
 頻りあり是ハ日本人芝居へ迄
 入らば日本人と見んとく其
 芝居大入りとめせばり市中
 の人々日本人と見んとて芝居
 の入り落しと云ふ
 以日唾龍尊の学校と見物せし
 唾と龍尊三百人など居り又盲目
 の学校へ往し小盲目八十人など



芝居狂言見物図

居り

四日花屋敷へ往し婦人大勢庭上へ踊りて見せ

五日観物場へ這入りし虎象其外の奇獣を集め

数十の熊ありて何とも牛より大きく人と角力を取り

六日諸院諸学校へ至る

七日日曜日小付市中商賣と休む此日大工植木屋其他

の職人数多来りて旅館内の舞臺と造作る又草花を
 どと饒り夜中といへども休むと云ふ是ハ明日日本人へ

馳走の大踊りと催さんとの支度あり
 八日昨日より支度出来上りて外へ登五十間横三十間斗り
 ある廣座一き新小舞臺と設けし庭上へ美草花
 と勝り庭より舞臺へ数万の「ランプ」を掛双べり燈火の光り
 玲瓏として露より麗はく藝者踊子の類ひ五十人余種々の
 粧ひをりて舞臺一面の大踊りをりて天し女の月宮
 殿お抱ふおみりねば歌舞の菩薩の浄土史も斯やみら
 んと思ひをりて心恍惚として見物做せり群集せり外国
 人の大い酒宴と催し曉天ふりくるまで猶交代小踊
 りあり

九日暑気甚ど強一お年我国へ来り「彼斯」の家と訪ふ
 「彼斯」の死と養子の代と成りて「彼斯」日本へ渡来せり
 節写真鏡と以て諸所の景色と移り取りて返り其
 画の額と許多掛り家作諸道具とも尽く美多亭
 主より酒菓子と出すけ時矮物二足来りて往
 者の衣類と嗅ぎ日本人と知り歡ぶと限りて膝
 へ上り袂と嚙へ少しも傍と放れず毛へ「彼斯」日本へ連
 戻りしものゝ日本人と見て駈来り歡び慕ふ斯
 の如し故小帰らんとるふ及んで別と惜し或ひは吹
 或ひは啼其情人間ふ異なるを戻り道ふて風船の

空中と往と見る是ハ新紐約へ来り一船由る走りて延
けとび入るもとも空中と往ときい船高く疾く飛び
目不見えずと云ふ

十日手妻と見物す其場所正面高座ありて美しき
箱或い種々の器等と飾り置て四辺に数百のランプ
と点々として暫時一異人兩人高座へ登り口上終つて
品と多ふその我国のものより仕を大いふて街まき委
種々の所作あり何とも奇なり面白
十日英吉利の女王世界第一の大艦ふあり日本人と
見物来り一りの風説あるお因り彼の艦と見物

小ゆさ且ちの艦の事と書る新文紙と見る小艦ハ「グレイ
ト」井一ステルンとよ銘小

- 一 長 廿 百十五間二尺
- 一 幅 十三間五尺
- 一 深 九間四尺六寸
- 一 車の輪直経 九間二尺
- 艦の両腹小車輪と備へ艦の尾小螺旋の車
と役け艦の腹と艦の尾との車の力ふく走る
- 一 帆 六本

帆柱の直経大もの三尺六寸小もの二尺

紐約の大船の図



九寸高廿大あるもの四十二間
 小なるもの三十二間二尺
 帆桁の長廿大なるもの三十二間
 二尺小至る
 帆布の濶廿 四十二間四方
 一 錨鍊の長廿 十三町二間
 一 荷の積高 五万五千石
 一 總乗組人数 四千五百人
 一 艦一時ふ十八里より二十六
 七里と走り外側総鍊作り

おく中の造作も鉄を以てせしところ多し艦の内外二重あり
 かま外側小害あり内側の板をさるるゆ且又中の艦の上下二艘の
 板を拆ふ造りしれば下の害あは上へを多上損ずといは
 下の恙がまし故に是と別れば三艘の船とあるべきの結構
 あり英吉利の海中の一孤島ありて以て國人遠く海
 外へ往來するに通商を専らするより會社を結んで
 以て大艦を造り出しより今の東洋通商社中にて是を
 持つとらふ。

十二日新紐約の旅館を出立し馬車おて二十五六町往
 波戸場より河蒸気船に乗り一里余を走らせ軍艦

「ナアヤガラへ乗組」
十三日午の刻、艦ととらへ、新紐約と開帆、亞非利加洲
さくぞ走りける

○大統領歴代畧記

千七百八十九年、今より八十三年、その四月三十日、新紐約
ふ於て華盛頓、大統領の任を請より、国を富み、兵を強く
すの政治を設け、且外国と交る、信義を厚く、新国
の威名を賤さず、在職八年の間、内外とも小平穩あり。
千七百九十一年、今より七十五年、その大統領の任を「ジョ
ン・アダムス」に譲り、け、時、佛蘭西人兵をあげて、合衆国

と討んとす、其故、合衆国、獨立のため、佛蘭西に助力をせ
し、よ、け、程、佛蘭西と歐羅巴諸國と戦争を、きり、し、と、合衆
國人、傍看し、援兵を出し、來らざるを、怒り、て、あり、爰、於て、二
代目、大統領、「アダムス」海陸の軍を備へ、き、衆人の希望を、
因て、華盛頓と、し、陸軍の大總督と、し、る、こと、ども、華盛頓、い
く、ど、あ、病、死、る、佛蘭西の事件も、僥倖、あり、て、平穩、と
あり、し、り、「アダムス」在職四年、し、り、千八百一年、今より七十
一年、その大統領の任を、「ゼツフェルソン」に譲り、「ゼツフェルソン」三
代目、大統領の成り、其国、い、り、盛ん、あり、し、り、至り、英國人
是と、嫉妬、て、亞米理加人、お、ま、び、り、恥辱、と、与、へ、し、り、亞人ら

怒り小堪えず遂ふ兵と挙く千八百十二年より千八百十
五年まで四年の間戦争小及びビーグ再び和睦調ひより
け戦争小く合衆國人の討死三万人餘小及びより斯る
騷乱の紛と小糸ト亜非理加州中の「アルゼリイ」と云ふ國
の海賊合衆國の高船と奪集ひ取りより小因り千八百
十五年今より五十七年までの夏海軍提督「デカナ」
ル兵船と辛ひて地中海小入り「アルゼリイ」國と討より小
忽地小降伏み「償金」と出しく事すことより其小「仏蘭
西」の領地ある「ロインヤナ洲」と千五百万「ドル」小く買うけ合
衆國小合せより「ゼツフェルソン」在職十六年よりて

千八百十七年今より五十五年お大統領の任と「セーム
ス、モンルー」小譲り「モンルー」四代目大統領とあり千八百
二十年の頃より「奴隷論」発りより

合衆國の南より小く「亜非利加」より「黒坊」を買ひとり
是と「下里」をりて身終るまで「牛馬」の如く小使ひ人の
道と尽させざる小因り天理小戻るの解と以て政府より
け「風俗」を改めさせんとされども然しこの南の國々小差障
り多き所を小用ひずして終小後世小至り大乱と引出
その「基」を醸せり并い別小一冊とる「奴隷」より事
発りより合衆國南北戦争の始終と記してけ書の

卷末不加えんとす

是れ依りて千八百二十二年南方の獨立と許す事と成りぬ「モンルー」在職八年ありて

千八百二十五年今より四十七年お大統領の任と「クインシ」アタムス不譲り「アタムス」五代目大統領とあり在職四年ありて千八百二十九年今より四十三年お大統領の任と「ジャクソン」不譲り「ジャクソン」六代目大統領とあり時ハ「耶蘇宗門」の事よりて南部の国々兵を起し千八百三十一年より翌年お至るまで騒乱あり又「亞米理加」の土人と戦ふと兩度「ジャクソン」在職八年ありて

千八百三十七年今より四十一年お大統領の任と「マルチン」フハン「フリーレン」不譲り「フリーレン」七代目大統領とあり合衆国の北隣りある英吉利領の「カナダ」国の人民乱と奔るると合衆国より應援えたるおより英吉利と「亞米理加」の間に不和とありすべし兵端を罷んとぬるお及べり「フリーレン」在職四年ありて

千八百四十一年今より四十一年お大統領の任と「ハリソン」不譲り「ハリソン」八代目大統領とあり僅く一月お死す故に副統領「タイルル」次て九代目大統領とあり「タイルル」在職四年ありて

千八百四十五年今より二十七年お大統領の任と「ゼーム」
ホルク小讓より「ホルク」十代目大統領となり「メキシコ国」
戦争あり

以戦争の畧説の既お前偏「桑方西斯哥」の件お出せり
「ホルク」在職四年おいて

千八百四十八年今より二十四年お大統領の任と「テロル」
小讓より「テロル」十一代目大統領となり「カリホルニヤ」の地お
金礦山のあると見えし「大平海岸」と大いお開拓す「テロ」
「ホル」在職三年おいて急病お罹り死す故お

千八百五十年今より二十二年お副統領「フィルモール」十二代



二代目
大統領
「ジョン・アダムス」の像

目大統領となり在職三年
おいて死す因りてまゝ

千八百五十三年今より十九
年お副統領「フランキリン」

「ピールス」十三代目大統領と成
りけ頃より「奴隷論」再び

争り戦争数回お及び「
「ヒールス」在職四年おいて

千八百五十七年今より十五
年お大統領の任と「ピユカナ

西海叢書

三編三

ン小儀の「ピユカナン十四代目大統領」と多國中一般奴隸論止
 時あり騒動せんく小大あり「ピユカナン在職四年あり」
 千八百六十年今より十二年おアブラハムリンコルン大統領
 の任と儀の「リンコルン十五代目大統領」とあり倍奴隸の論
 さへごち北部南部の大戦争とあり四年ありて治ら
 ざりしが南部終小打負け稍平定と為さんとするとと
 南部の刺客大統領「リンコルン」と劇場の中小筒と以
 て打「ババ」リンコルンはが為死
 千八百六十八年今より四年お「グララン十六代目大統領」
 あり時小至り南部平定して奴隸論もとと止り

華盛頓の代々の大統領を賢明にして私意なく
 實小「亞米利加合衆國」の如き世界始りてよりの共和
 の邦土とりよべきありとして各國とも小是と行せり
 米理賢へ東巡りして「歐羅巴」へ出るの道都合ある
 故素通りぬんと思ひの外は処小暫時間取りととととと
 歐洲へ渡るべきととと「サントウイス」以来その見安と記し
 皇國の人々が歸船の順路とも捨置べきあらねば程その日
 の「ニツ」とか「括んで」多ふ記は
 五月十三日「新紐約」に出帆せし船は六月朔日「亞非利加
 洲」の中「シントウインセン」島へ着すけ地へ「蒲萄牙」の所領

あり土人黒坊ふりて筒袖の衣と着り女の袖をき服も腰より下へ馬乗袴ふ類いなる物とて何れも素足と考とい土地の海岸より山上ふ至るまで焼砂の如き物のこるれ草木ともふ甚ぞ少る一は島水ふ之く只一ヶ所僅く湧出る清水あり天水と貯へ置の外へことと飲料と多す清水と汲とるふい各一升入不どの器と持来り順番ふるあり然とも清水湧出ると少るけとて器一杯小溜りまぐふい半時かると言り當節ハ早魁ふく島人いふく飲水ふ難波あるより言へり

同日當所と出帆く廿日ふ至り同洲コウアンタ湊ふ着す

此地も程蒲萄芽領ふりて人口二万なるとり市街あり山上一いこる赤土草木稀ありといへとも海岸ふい椰子の大樹多し魚類菓実とて至つて下直あり土人の魚肉と食し亦唐より粉と最上の糧と為す當地の人春蛙馬ふと僅の給料のふ十人或は二十人くらわづ鍍の鎖りおて繋ふと宰領一人附そひ荷物とて運送をらと居るあり其松ふとんど牛馬の如し然れども鍍鎖おて繋ふと給金と取逃して往ところとせすとある土人の額ふ入墨あり黒人ふも分明らざれどもけ入墨ハ出生の布の多るは我朝人歩歩す土人群り来りて



刀の柄と極ぐ衣類の袖など
 と採り警衛の歩卒制す
 ともども用ひず然る日本入
 へ人と食と言ふの説あると
 聞弑いふ口と明きて土人
 向ふ土人恐と戦慄て逃
 散ト夫より側へ寄るもの
 け辺の者ハ魚と天窓へ載て
 荷ひ頭上より血まどりの
 顔へ流まかるともめて拭い

背知ぬ侍おて往さま尻もるく胸
 人の居宅ハ山の半腹ありて何
 るが故ハ我朝人の草物ハ暑さ
 國の寒中のよりおて土人の焚
 火と氷をさふより飲料ハ三十
 里外より運送すると言ふ物の
 不自由ある以て知るべし
 同晦日ロウアンタ湊を岡帆
 通る高波の名所ハ船ハ大山
 登り函谷ハ下る如し今日船
 中おて大鳥ととる垂名ヲケ
 と言ふ左右の翼と岡けハ渡り
 三間余ハ及ぶ

八月十六日同洲一エンジンヤボンエの入江小着す土人の男女と
由小黒く齒と漆と

同十七日一板答責亞淡へ入船す地ハ和蘭の所領ハ一
人口十二方あり波戸場と上り五六町也大門と設く左右

小仁王尊の如き大いある木像立たり傍ら小數十人長き
鎗と持て警備するハ我國の足附の類も十町ぐり小

一史那町へ出ると文王の社も伯公の社あり市中の
家作ハ少く我國ハ類す地西瓜大いゆて味ひ至て羨お

まゝ日本のお油あり三合入りかどの徳利ハ詰日本将油と認
め下小長崎改海とり札あり價四半弗あり又亜名一フアルと

り小鳥小似く首のところ白き鳥至つて多し

同廿七日ハ処と用帆り九月十日支那の廣東府の地先
の離と島香港小着船す鳥片の乱より英吉利の所領と

ありしの地るり淡の町とイクトリヤといふ之ハ英吉利女王の
名あり女王始めたる市街と罷き故其名と負すとぞ

土地平坦のところ少く山の腹小道と附海岸小ハ支那人の
家多く山上ハ尽く歐羅巴人の住居あり物價の高直る

この世界第一あり言り同十八日碇と巻く香港と出帆し
同二十日東京品川ふこそ着りりれ

此本西洋新書と教すれど人の紙と紙上と漆をせむらう

東洋亞国あつりあの間まより未いまだ西洋せいやうの新見聞あらたなけんぶんと記しす小販いんぎあら
 ず然しかる小漸せうぜんその事終さいまば第四編目の始はじめ小筆おひでと新紐あらたなひも
 約やくより佛蘭西ふらんせいの馬塞里港ばざりこう小渡わたりて彼の国かのくにの事ことハ勿論もちろん英吉えいこく
 利諸部りしよぶの説話せつわと尽つくす題号だいごうの趣意しゆいと果はたさんと欲ほつす然しかるま
 初快しよくわいの六卷むくわんハ西洋せいやう羈旅きりょの道草みちくさあて七卷しちわんよりこそ西洋新書せいやうしんしょの
 本文ほんぶんると看官くわん僥倖りやうじやう小黒頭くろくわう公こうの遲脚ちきゃくると免ゆるり夕ゆふ

西洋新書三編下 終

西洋新書三号より後依りて移脱小成續て出版

官許

明治五壬申年中春刻成

瓜生政和編輯



橋本玉翁正画



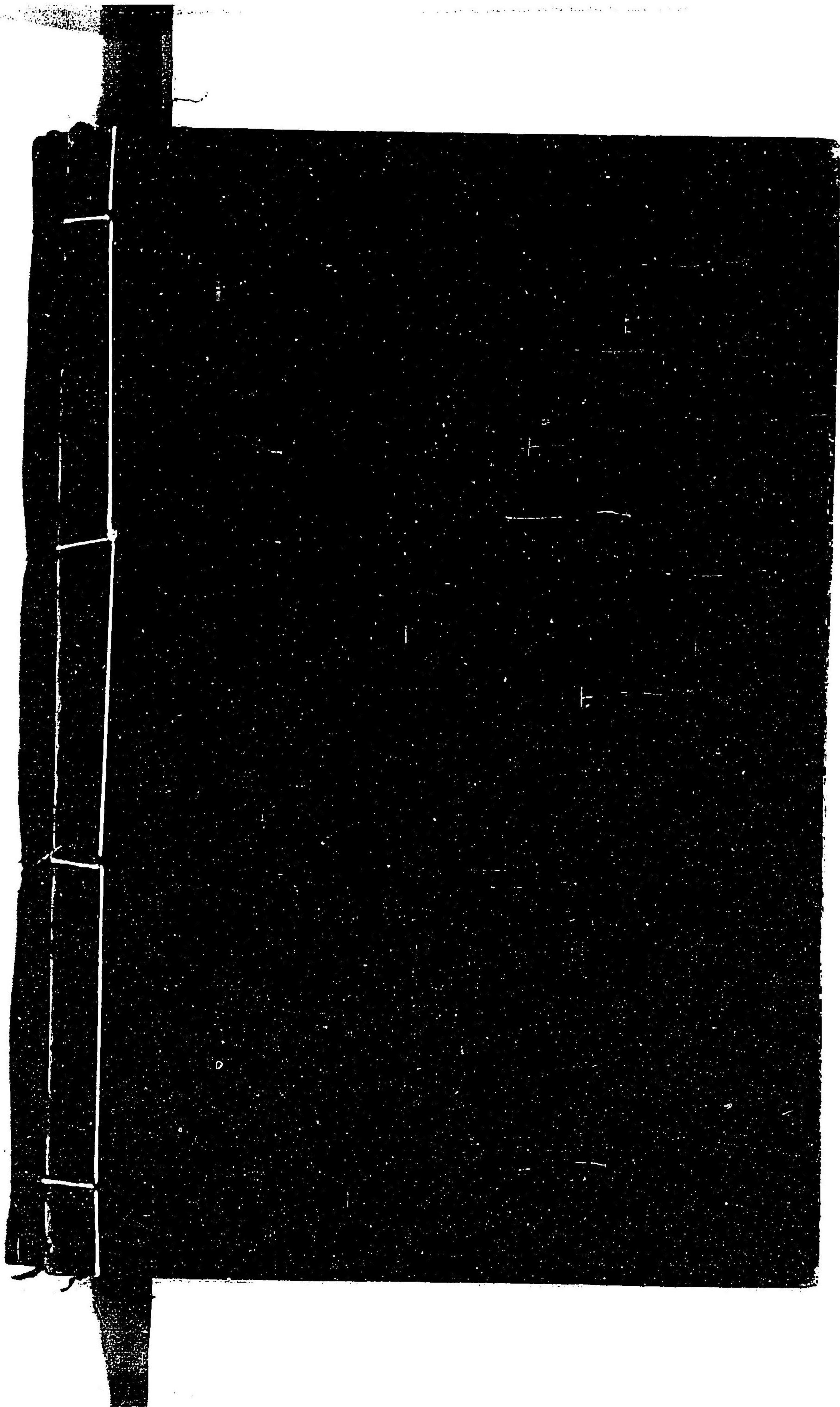
梅村宜和藏梓



東京
書林

大和屋喜兵衛

發兌



館藏書會行號		特31
室		671
一	一	
四	四	
冊	冊	332

六
書
本